

# 法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>

産学連携 **3D** 教育プロジェクト

## 出前講義は学部とプロジェクトとの絆づくり

特任教員 鈴木 美伸（すずき よしのぶ）



私たちのプロジェクトでは、2年前から『出前講義』というものを始めています。教員の方々がご休講をせざるを得ない時、私たちプロジェクト教員の授業教材を用いて代講を行うものです。ビデオ教材の普及を狙って始めたことでしたが、今ではこれが学部教員の方々との良い絆づくりになっていると感じています。

### 出前講義の種類

ビデオ教材講義を中心に、以下のようなものを行っております。

1. ビデオ教材講義系 ⇒6種類の分野別ビデオから働く力を解説
2. コミュニケーションスキル系 ⇒対人スキル、グループ・ディスカッション等
3. アカデミックスキル系 ⇒大学の学び、ロジカルシンキング等
4. 就業力系 ⇒社会に出てからのキャリア形成
5. 就活セミナー系 ⇒面接、インターンシップの心構え等

### 出前講義から私たちが学ぶこと

出前講義のご依頼があると、私はまず当該科目のシラバスを拝見し、その授業やセミナーの狙いや指導すべきスキルを想像し、お引き受けするコマの内容を考えてご提案致します。心がけているのは、お引き受けするコマが独立した一コマにならないように、できるだけその授業の実践(ワークショップ)やその授業が社会で有用である点を織り込むようにしています。これはなかなか大変な作業なのですが、これによって私の学部授業の理解が深まります。そしてそれらの知見が新たな出前講義の発想やビデオ教材の企画につながるのです。

### 受講学生の感想

今月も小金井キャンパスと多摩キャンパスへ出前講義に伺いました。今回はビデオ教材を使わず、アカデミックスキル系とコミュニケーションスキル系を行いました。以下は受講した学生からの感想抜粋です。

「このような機会がない限り、気づかないような話が多くて今後に生かせそう」  
 「自分のレポートの考察で、空間軸と時間軸を分けて考えようと思いました」  
 「プレゼンテーションの構成や事実と意見の区別等、知らない知識が得られた」  
 「90分がアツという間に終わった」  
 「就活だけでなく、社会で生きていくにあたり必要なスキルだと思った」  
 「学んだ事だけではなく、そこから得たものを話さなければとわかった」  
 「今やるべきことがわかったので自分で少しずつ進めていきたい」  
 「大学で何を学んでいるのか深く考えてみようと思います」  
 「大学で身に付けられることをしっかり身に付け、社会に出たいと思った」  
 「大学がどういうことを学ぶ場所であるか再確認できた」

### 略歴

84年成城大学法学部卒。

日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

e-mail:

[ysuzuki@stage41.com](mailto:ysuzuki@stage41.com)

[yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp](mailto:yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp)

研究室は一口坂校舎8F

(7月に移転しました。)



略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手。90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授。04年~IM研究科教授。

## 薦められたら、やってみる

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

ゼミの学生に「こういうおもしろい企画があるから行ってみたら」と薦めることがよくあります。はっきり言って反応は悪いです。アルバイトがあるというのが最大の理由です。アルバイトで数千円を稼ぐこと、そのときにしか体験できない機会とどちらが大事か判断できなくなっているのが多くの学生です。

私が大学生の頃は、「教員が薦めるのだから何かいいことがあるのだろう」と考え、内容はよくわからないけれど参加するのが当たり前でした。しかし、いまは、「たとえ先生の薦めでもよくわからないことには行かない」という行動が一般的です。

薦められたらやってみるという行動をとっている学生は、学業においても就職活動においても、良い結果を残しています。幸運の女神の前髪をしっかりとつかむには、億劫がらずに、薦められたことには挑戦するという態度が重要だと思います。

## 就活とは？

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。11年~法政大学教員

原点に帰って考えてみた。現時点での私なりの定義は「学生がどう考えてどう行動する人間か、その問いに自分を題材にして書き・答える場」だと思う。働く場では、商品・品質・値段・クレームなどなど、仕事の内容によって様々な課題に立ち向かって、考えて動かねばならない。

その資質・能力を採用側は見ている。就活とは？との答えの一つである。

学生時代に複数の活動に身を置き、それぞれの環境で頑張る姿から場面によって異なる考え方・動き方が出てくるので、その多面性を表現することも大切と伝えている。

## 採用する側も若作り!?

学部事務課長 細田 泰博 (ほそだ やすひろ)



法政大学社会学部社会学科卒。  
学務部学部事務課長  
本学応援団総監督

大学生の就活への意識が昨年より低い(遅い)と聞いた。採用側(企業)はなかなか活気づかない就活市場を見て「遅れをとったら大変」とでも思ったのだろうか、TVに「これ何のCM?」というものが急増している(と思う)。「こんなことを生業にしている会社もある」と知らせるのはある意味キャリア教育にもなると思うが、名だたる大企業までもが「これ見て家を買う人はいないだろう」といったCMを流すのは、誰かが煽っているような気がしてならない。「今のうちに学生に馴染んでもらっとかないと不利ですよ…」とか。

学生に馴染んでもらおう、と言えはリクルーターを始め学生に接触する者には入社1・2年の若いヒトが登用される(らしい)。親しみやすく、また学生と社会人のギャップを語るにはいいだろうが、結婚や家を買うといった人生設計、またその会社で偉くなって何をしようなど意識させるには、熟年層との接触も必要ではないか。入社後の短期展望だけで会社を選ばせていいのだろうか。「イメージ戦略としてオジサンはちょっと…」ということか。

### ◆ ジョブスタディ・コラボ・かんとう

11/18に法政大学にて行われました、企業と学生が本音で語り合うプログラム『ジョブスタディ・コラボ・かんとう』(経済産業省 関東経済産業局主催)には各大学より44名の学生が集まりました。多様な規模・業種で働く社会人が、大学生に仕事の楽しさ、やりがい、辛さ等、社会人の本音を語り、学生たちと座談会を行いました。12/9の回も本学で開催いたします。詳細は当プロジェクトのHPでご案内しています。http://3dep.hosei.ac.jp/

### ◆ 編集後記： 細田課長の記事にあるように学生の就活アクションが昨年より遅いようです。例年行っている学習ステーションの就活サポート企画も例年より参加人数が少な目です。学生もまだまだエンジンがかかってないのでしょうか。思えば私も学生時代は試験直前やレポート締切間近にならないとやる気にならなかった気がします。(そしてそれは今も続いています…) << 事務局:平山 >>

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: http://3dep.hosei.ac.jp/